

時空の漂泊

(二〇一〇年十二月六日 第三十三号)

高橋 滋

広島便り

二〇一〇里山を歩こう(三)

身近な自然観察

堂床山 五月一日(土)

可部の周辺にいくつかの山があり、行

ってみたいと思っていた。左地図の上部である。このあたりは結構、高度のある山が多い。その一つが堂床山である。広島市の中心から二十キロ程度なのに、それらが分水嶺になっている。

南原峡は明るい谷で、ダムと中国電力の発電所がある。自動車道が整備されていて登山道も分かりやすい。





花や蝶は少ないが、新緑のグラデーションが綺麗だった。



佐伯のライラック 五月二日（日）
佐伯の花上の小屋（左地図の印の位置）の庭のライラックが咲いた。五年ほど前に札幌から種を送ってもらい、それを蒔いて育てたものだ。

ミニリンゴ（クラブアップル）も満開である。





今年は花壇の一角を「白」でまとめた。ホワイトガーデンのつもり。土地が花崗岩質で白っぽいので、あまり映えない。



アネモネ、ムスカリ、ビオラなどに、アパガンサス、ジギタリスなども白にしてみたが、育ちがよくない。

毎年りきゆうばいのことながら利休梅が輝くように咲き誇る。